

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0461 ◆◆◆

17/12/06

【ひと足早い「来年の相場見通し」を考える】

改めて指摘するまでもなく、ドル/円はレンジ取引が続いている。チャートを見れば一目瞭然のように、今年2月以降はとくに酷く、107.30-115.50円のボックス相場だ。残り1カ月を切った年内の動静について期待はあまりできないものの、問題は来年だろう。諺に「来年のことをいうと鬼が笑う」ーというものがあるけれど、年内も残り少なくなってきており、もうそろそろ「解禁」ではなかろうか。今回の当レターでは、サイクルなど幾つかの視点から、ひと足早いドル/円相場の当面の見通しについてレポートしてみたい。

<< サイクル・日柄 >>

詳細についてはバックナンバーを参考にされたいが、9月20日付の当レターで、筆者は「ドル/円は2016年6月24日の98.65円で長期66ヵ月サイクルのボトムをつけた」ーと報じている。つまり、足もとのドル/円は、長期のドル上昇波動に入っていると考えられ、かなり長いあいだドル高基調が続く公算が大きい。ちなみに、ドル/円は経験則に見て、「7年周期で天井をつける」傾向がうかがえる。前回のドル高値が2015年6月(125.86円)だったことからすれば、次の「大天井」は2022-23年と推測され、そこまではドル高基調が続く可能性を否定できないだろう。

ー以上が、非常に長いタームの見通しになるのだが、ではもう少し短い期間で考えた場合は、いったいどうなるのか。

先で指摘した9月20日のレポートをいま一度取り上げると、66ヵ月という長期サイクルのほか、「2017年9月8日の107.33円で、短期10-15ヵ月サイクルのボトムをつけた」ーと報じている。これからすると、短期サイクルにおける次のボトムは、2018年の7-12月が見込まれよう。よって、大雑把な値動きを予想するなら、メインシナリオは「来年前半のどこかでドルは年間高値を記録し基調が反転、下値を試す展開になる」ーといったものになりそうだ。

ただし、間違っほしくないのは、来年の夏以降、年末までにつけるボトムは10-15ヵ月という短期サイクルにおけるもの。数年スパンという長い期間におけるドル高基調は継続していると予想されることから、下がったところは「絶好の買い場」であるのかもしれない。

<< 価格 >>

では、前述した「サイクル・日柄」の観点から導き出された、来年の前半に記録するというドルの高値、そして年後半が予想される同安値はどの程度なのだろうか？正直、予想は困難なのだが、飽くまで「現段階での目安」ということで考えてみたい。

先でも指摘したように、今年2月以降のドル/円は107.30-115.50円のボックス相場だ。形成レンジは、およそ8円強になる。

以上のデータを念頭に置いたうえで、「形成している保ち合い(ボックス相場)をブレイクした場合、形成していた価格分だけ値が飛ぶ可能性がある」ーというテクニカル分析の基本を参考にすると、その上値メドはおよそ122-123円となりそうだ。もちろん、そのレベルまで一本調子のドル高が進行するかは不明だが、来年の前半、上半期に120円を超えるドル高・円安をつける可能性も否定出来ないと思われる。

なお、上半期につけたドル高値示現後、軟化して下半期に記録するドルの安値は、一年間に平均で17%程度動くという「年間変動率」の面から推察し、取り敢えずは110円以下、現段階では105円程度があっても不思議はない気もしている。

ー上記のような見通しは、「当たるも八卦当たらぬも八卦」ではあるけれど、今年動かなかった分の反動がでる、一年を通した「大相場」になることをいまから期待し、楽しみにしてみたい。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

